

中世の日本 | 下剋上と民衆の力

1 単元の概要

南北朝争乱と室町幕府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会的な変動などが、中世の武士や民衆の活力を高めていきました。また、農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、禅宗の文化的な影響などから、武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれました。それらのことによって、より多くの人々が時代の主人公になれたときです。私たちの住む北九州でも時代を支える人々がいました。当時の北九州の人々の活躍を通して、わが国全体に目を向けて時代の流れを考えていきましょう。

2 学習のねらいと手だて

- 東アジアとの国際関係や、応仁の乱後の各地の戦乱の広がりを通して、地方の武士が台頭し、戦国大名が支配するようになった様子を理解する。
- 九州の武士によって勘合貿易が支えられた様子や、戦国時代の合戦の様子を具体的に調べさせ、下剋上の世の中の特徴をとらえさせる。



長野城合戦の様子

3 指導計画（総時数4時間）

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点 ◆展示物など	時間
I 鎌倉幕府の滅亡、建武の新政から室町幕府の成立までの動きをまとめ、鎌倉幕府と比べ、支配体制の違いを考える。	○ 建武の新政の崩壊と南北朝の内乱の間に武士の社会が変化したことに関心をもたせ、学習の見通しをもたせる。 ◆ 足利尊氏感状	1時間
II 商業や手工業の発展により、民衆の暮らしがどのように変わったかを考え話し合う。	○ 産業と交通の発達の中で、商人や手工業者の果たした役割や職業や身分の分化が進んだことについても関心をもたせる。また、町や村の自治活動の具体例にも着目させて理解させる。	1時間
III なぜ、地方の武士や民衆は下剋上の力をもつことができたのか調べる。 ① 遣明船の様子から、東アジア諸国との交流について調べる。 ② 民衆意識の高まりと、応仁の乱のその後の社会を通して、地方の武士が強くなっていき、社会的・文化的に大きく変動していくことを調べる。	■ 博物館での学習 ○ 14～15世紀の東アジアにおける貿易の発達の中で、勘合貿易について理解させ、その貿易を支えた人々のなかに門司氏がいることに気付かせる。 ◆ 遣明船シアター ○ 戦乱の時代に北九州にかかわりのある戦国大名に着目させる。 ◆ 「長野城合戦」ジオラマ ◆ 長野城・園田浦城出土品 等 ◆ 「大内文化の流入」パネル 等	2時間

4 学習展開例（2時間扱い）

学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
1 遣明船の様子から、東アジアと九州とのかかわりを調べよう。		博物館での学習 1時間
I テーマ館イメージグラフィックを見る II 遣明船シアターの映像を見る。 III どんな人々が遣明船にかかわったのか調べ、九州の武士の成長について考える。	○ 19回にわたって派遣された遣明船の合計数が84隻であることを説明する。 ○ 84隻の遣明船を仕立てたのは誰なのか課題をもたせる。 ○ シアターの映像から、遣明船の様子を考えさせ、どんなものが運ばれたかをワークシートに記入させる。 ○ 勘合貿易に門司氏が大きくかかわっていたことに気付かせる。 ○ 産業と交通の発達の中で、多くの武士や民衆が活躍し、成長したことを説明する。	◆テーマ館イメージグラフィック ◆シアターの映像と模型 ◆輸入陶磁器 ◆輸入銅銭 ◆掛け軸 ◆永楽通宝（銅銭・明銭） ◆勘合印
2 長野城の合戦の様子などから、中世の北九州にゆかりの深い武士たちの様子や関係を調べよう。		博物館での学習 1時間
I 長野城合戦ジオラマを見ながら、解説を聞く。 II 展示資料やパネルなどから北九州にゆかりのある武士たちをさがす。 III なぜ、民衆が力をもったり、戦国大名が登場したりしたのか考える。また、当時の文化についても触れる。	○ 16世紀に北九州では長野氏という武士が勢力をもっていたことを説明する。 ○ 長野城はどこにあったのか予想させる。（小倉南区長野） ○ ワークシートに北九州にゆかりのある武士の名前をまとめさせる。 ○ 学校で学習した室町幕府の成立や農工商の発達の様子を説明した上で、博物館の資料等をもう一度見直し、考えさせることで、中世という時代を概観できる手がかりとさせる。	◆「戦国の時代」パネル ◆「長野城合戦」パネル ◆長野城合戦ジオラマや解説 ◆長野城出土品 ◆園田浦城出土品 ◆長野氏所伝の具足 ◆騎射秘抄 ◆毛利元就書状（門司文書） ◆飯尾宗祇画像 ◆「飯尾宗祇の路」パネル ◆「大内文化の流入」パネル

5 博物館での学習

1 遣明船の様子から、東アジアと九州とのかかわりを調べよう。

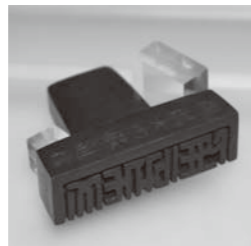
テーマ館の中世の北九州では、地域にある中世の遺物や資料ばかりではなく、遣明船シアター「門司が支えた遣明船」の映像があります。遣明船シアターでは、遣明船内部の様子が再現されています。展示をただ見るだけでなく、流れる映像からも当時の様子を伺い知ることができます。また、この貿易に門司氏(北九州の武士)たちが大きくかかわっていることに気付くこともできます。さらに、

映像で語られた勘合印・陶磁器・永楽銭等を展示物と結びつけることも可能です。



遣明船シアター

※遣明船シアターの詳細については、P38、P39「門司が支えた遣明船①②」をご覧ください。



勘合印



輸入銅銭



輸入陶磁器

2 長野城の合戦の様子などから、中世の北九州にゆかりの深い武士たちの様子や関係を調べよう。

展示やジオラマを見たり、解説の音声を聞いたりしながら、中世の北九州にゆかりの深い武士や大名を探することができます。北九州の武士である長野氏が、周辺の有力な戦国大名である大友氏に攻められる様子を長野城合戦ジオラマで知ることができます。そこには、長野氏が必死に城を防御したこともうかがえます。また、その解説を聞くことで、長篠の合戦の10年前に合戦ですでに鉄砲が使われていたことに気付くことができます。さらに、北九州が交通の要衝だったので、時の中央政権が直接支配を行おうとしたことから、地元の有力な大名が誕生しづらかったことや中央政権が弱体化した戦国時代には争いが多かったことなどを考えることができます。また、文化面では、大内氏の支配によって京の文化が伝えられたことも見逃せません。



長野城合戦ジオラマ



大友氏の旗印(家紋)



長野氏の旗印(家紋)



長野氏所伝の具足



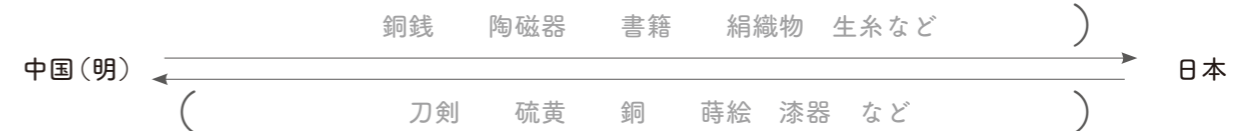
鉄砲を打つ兵士

1 遣明船シアターを視聴し、東アジアと九州とのかかわりを調べよう。

(1) 遣明船を通じた貿易を始めた幕府の将軍と中国の皇帝は誰ですか。また勘合印が遣明船で使われていた理由は何でしょうか。

幕府の将軍 → 足利義満 (理由) 海賊行為をおこなっていた倭寇と正式な貿易船との
中国の皇帝 → 永楽帝 区別をつけるため。

(2) 遣明船では、どのようなものを運んでいましたか

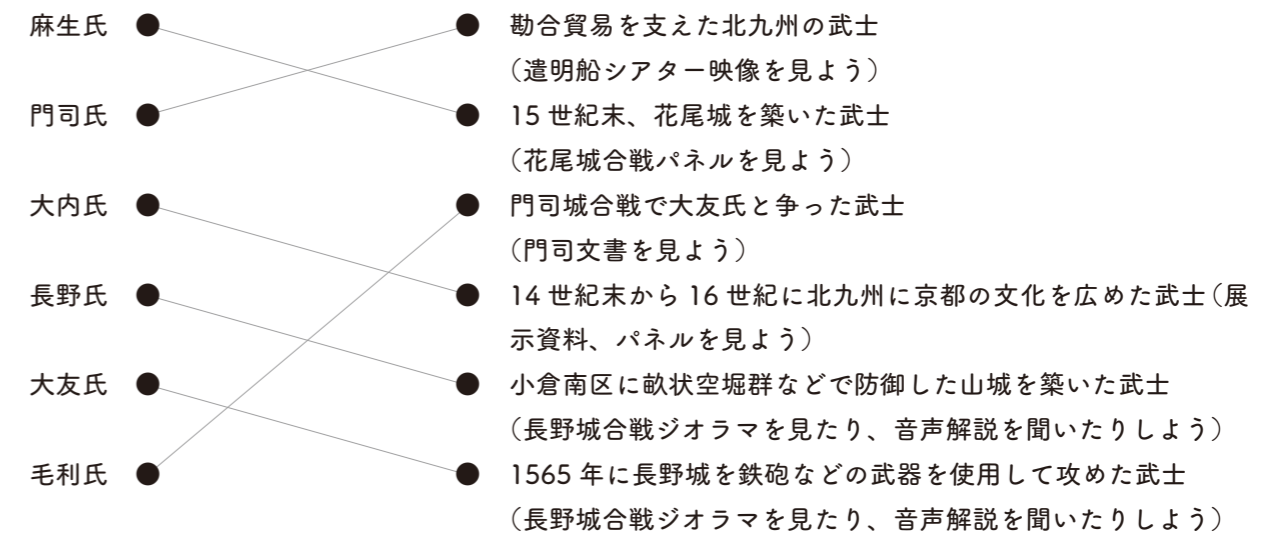


(3) 遣明船を仕立てたり、動かしたりするなどして貿易を支えた北九州の武士の一族は誰ですか。また、九州の武士はどのようにして成長していききましたか。

貿易船は門司で造られ、遣明船の船頭に門司氏がなっていました。明との貿易において、門司氏の力は不可欠であり、貿易を通して力をつけていった。しかし、貿易は後に大内氏によって独占されるようになった。

2 中世の北九州にゆかりの深い武士たちの様子や関係を調べよう。

(1) 展示資料などを見て、下の武士たちに関係の深いものを選び、線で結びましょう。



(2) 各地の有力な戦国大名は、どのようにして力をつけていくことができたのでしょうか。〈下剋上〉や〈貿易〉などの言葉を使って説明しよう。

実力で上の身分の者をたおして、力をつけたり、貿易の利益によって、経済力をくわえて力をつけたりした。